

平成28年度 施策評価シート

基本目標	区民と区が協働で「すみだ」をつくる	
政策	520	生涯学習・スポーツ活動の輪が広がるまちをつくる
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する
施策の目標	健康づくり、体力づくりのため区民がそれぞれの年代や目的に応じて生涯にわたりスポーツを楽しむとともに、スポーツを通じて地域の人々との交流が盛んになっています。	

1 基本計画における成果指標

指標名	単位	目標値	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
「週に1回以上運動・スポーツをしている」成人区民の割合	%	53.0	-	39.3	-	36.5	-
「いつでもスポーツを楽しむことができる環境が整備されている」と思う区民の割合	%	45.0	-	-	-	-	49.9

2 1の「成果指標」以外に施策の進捗状況を示す指標

指標名	単位	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
総合型地域スポーツクラブの設置数	箇所	2	2	2	2	2
総合型地域スポーツクラブの会員数	人	695	691	710	740	790
スポーツ施設の設置面数	面	38	38	38	38	38

3 目標と現状(実績)についての分析

指標の推移・施策の課題や問題点について記述
<p>環境整備に関する成果指標の目標値については、総合体育館の完成により平成22年度に中間目標値33.0%を達成したため改めて上方修正(45.0%)した。一方、スポーツをしている区民の割合は目標値を割り込んでおり、対策の検討が課題である。</p> <p>また、スポーツができる環境整備については、本区の立地環境から屋外運動場が不足しており、基本計画の主要公共施設整備事業として、(仮称)総合運動場を整備することとしている。</p>

4 今後の施策の運営方針

施策の戦略的方向性(選択肢に を付ける)
(1) 優先的に資源投入を図る。
(2) 現状維持とする。
(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】
<p>本区の高齢化率は今後も進んでいくことが予測されており、生涯スポーツの促進や競技スポーツの振興は、区民の健康増進及び体力向上の観点からも、欠かすことのできない重要な施策でとなっている。</p>
【今後の具体的な方針】
<p>区の住民意識調査の結果によると、30代から40代の子育て・働き盛り世代のスポーツ実施率が低くなっている。運動やスポーツに親しむことは、地域との交流や親子がふれあう機会の創出、生活習慣病の予防等の観点からも有意義で、こうした世代に対するきめ細かなアプローチが必要である。合わせて、区民が健康で豊かな生活を送れるよう、誰もが運動やスポーツを楽しめる環境を整備していく必要がある。2020年のオリンピック・パラリンピックを4年後に控え、スポーツや健康づくりに対する機運も高まってきていることから、区民のスポーツ振興や健康づくりを促進していくため、「(仮称)総合運動場」の整備を進めていくこととしている。</p>

5 部内各課で実施しているこの施策に係る事務事業

(単位：千円)

番号	事務事業名	課名	27年度	事務事業評価 シートの評価結果	部長コメント
			歳出決算額		
1	区民スポーツ教室運営事業	スポーツ振興課	1,350	現状維持	
2	スポーツ施設開放事業	スポーツ振興課	4,216	現状維持	
3	区民体育大会・都民体育大会運営事業	スポーツ振興課	5,778	現状維持	
4	区民体育祭運営事業	スポーツ振興課	8,284	現状維持	
5	墨東五区各種大会運営事業	スポーツ振興課	5,186	現状維持	
6	ホームタウン・スポーツチームの誘致育成事業	スポーツ振興課	219	現状維持	
7	姉妹区親善スポーツ大会運営事業	スポーツ振興課	208	現状維持	
8	障害者(児)スポーツ・レクリエーション大会実施事業	スポーツ振興課	2,397	現状維持	
9	総合型地域スポーツクラブの活動支援事業	スポーツ振興課	0	現状維持	
10	野球場の借り上げ事業	スポーツ振興課	17,183	現状維持	
11	高齢者健康体操教室運営事業	スポーツ振興課	6,584	現状維持	
12	両国屋内プール事業(障害者水泳教室)	スポーツ振興課	220	現状維持	
13	東京マラソン招致活動実施事業	スポーツ振興課	660	廃止	平成29年実施の大会から、墨田区に東京マラソンのコースが設定されたので、運動としては終了する。
14	区民納涼民踊大会運営事業	スポーツ振興課	1,009	現状維持	
15	わんぱく相撲・わんぱくトライアスロン運営事業	スポーツ振興課	700	現状維持	
16	旧中川艇庫整備事業	スポーツ振興課	4,899	現状維持	

【評価結果】

拡充：効果が高く、拡充による更なる効果拡大も期待できる。

現状維持：効果は高いが、拡充しても効果拡大までは期待できない。

改善・見直し：手段の見直しで効果を拡大する必要がある。

縮小・統合：効果は高くないが、継続する理由がある。

休止・廃止：効果は高くなく、継続する客観的な理由に乏しい。

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 1

作成年月日: 平成28年6月13日

事務事業名	区民スポーツ教室運営事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	区民スポーツ教室経費		執行実績報告書ページ	194

1 事業の概要

昭和51～平成4年度 区内北部、南部の小学校で実施、平成5～10年度 業平小、平成11年度 業平小 二寺小、平成12～17年度 スポーツプラザ梅若 旧曳舟中、平成18年度 スポーツプラザ梅若 両国中、平成19年度 スポーツプラザ梅若、平成20～22年度 隅田小(21年度～廃校) 立花吾嬬の森小、平成23年度～ 第四吾嬬小、外手小で実施	事業開始年度	昭和51年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住・在勤の成人					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区内小学校2校(北部、南部で各1校)の体育館を会場とし、スポーツが苦手な人でも簡単に楽しめるようニュースポーツ(ミニテニス、ビーチボールバレー等)を主な種目としたスポーツ教室(年20回程度)					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
健康増進及び体力の向上が図られている					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	延実施回数	回	目標値	40	40	40
			実績値	39	39	39
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数	人	目標値	650	600	650
			実績値	586	611	572
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
<p>昨年度と比較し、第四吾嬬小(北部地区)の申込者が10名減ったため、延参加者数が減少した。また、第四吾嬬小(北部地区)30名、外手小(南部地区)16名と、地域間で申込者数の違いがある。今後、南部地区の申込者が増加するよう周知に取り組む。</p>						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度 歳出予算額	1,350	27年度 歳出決算額	1,350	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額	1,350
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 172	一般財源 1,178			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	講座等参加者負担金			収入額	172
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>本事業は区民の健康増進、体力向上を図る事業として必要性がある。また、本事業は区内在住・在勤の成人を対象としているが、参加者は高齢者が中心となっている。今後は、子育て世代等を対象としたスポーツ教室のニーズを探る必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>本事業のさらなる周知ができれば、参加者数の増加が見込まれる。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
<p>高齢者を対象とした事業との統合を検討する必要がある。</p>				
(4)現状と課題	<p>申込者数を増やすため、会場及びPR方法等について、検討する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	スポーツをする機会の確保、スポーツを通じた地域コミュニティの醸成・活性化策として有効な施策である。
今後の方向性 (見直しの視点)	事業PR方法を検討していく必要がある。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年 6月13日

事務事業名	スポーツ施設開放事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	中学校スポーツ施設開放経費		執行実績報告書ページ	194

1 事業の概要

スポーツ基本法第13条に基づき、区立中学校のスポーツ施設に指導員を置き、一般区民に開放している。	事業開始年度	昭和43年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住・在学の中学生以上の者(区内在住・在勤の15歳以上の者)	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
区立中学校6校及び旧学校施設2施設の体育館・校庭に指導員を配置し、区民への開放	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民の健康増進・体力の向上とともに、スポーツを通じた地域住民相互の交流が活発な	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	延実施回数	回	目標値	400	400	400
			実績値	376	369	369
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数	人	目標値	6,000	5,500	5,500
			実績値	5,185	5,408	5,816
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
平成25年度から旧曳舟中学校が会場として使用できなくなったことから、種目が減少し延参加者数も減少したが、現在は回復傾向にある。今後も区民ニーズを分析し、より魅力的な事業展開を図る。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費
27年度 歳出予算額	4,245	27年度 歳出決算額	4,216	27年度 執行率	99.3%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 4,216		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
各競技団体の協力を得て実施しており、各種目の普及も目的としている。毎年延5,000人以上が参加しており、事業を休止又は中止をした場合、大きな影響が予想される。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
学校施設の有効活用策として定着している。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
各種目に精通したスポーツ推進委員や体育協会関係者を指導員として配置しており、参加者の習熟度に合わせたきめ細やかな指導ができています。				
(4)現状と課題	参加者数を増やすための、PR方法や実施方法について、検討する必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	スポーツをする機会の確保、スポーツを通じた地域コミュニティの醸成・活性化策として有効な施策である。
今後の方向性 (見直しの視点)	学校の統廃合等により、実施可能な施設が減少してきているため、事業の実施場所を中学校と旧学校施設等だけではなく、その他の施設にも拡充していく必要がある。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月13日

事務事業名	区民体育大会・都民体育大会運営事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	区民体育大会兼都民体育大会運営費		執行実績報告書ページ	194

1 事業の概要

昭和22年の憲法施行を記念した都民体育大会開催を契機に、昭和24年に第1回区民体育祭が開催された。その後、種目、参加選手数等が増えたことや都民体育大会派遣選手の選考等の理由から、区民体育大会を春に、区民体育祭を秋に実施するようになり現在に至っている。	事業開始年度	昭和24年
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住・在勤・在学者	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
各種スポーツ大会の開催(30種目)、都民体育大会への区代表選手の派遣	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民のスポーツ活動への参加、健康増進、体力及び技術の向上、また、区民相互の交流、親睦が図られている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	実施種目数(区民体育大会及び都民体育大会)	種目	目標値	59	59	59
			実績値	56	56	56
成果指標 (手段に対する指標)	延参加者数(区民体育大会及び都民体育大会)	人	目標値	10,900	11,000	11,000
			実績値	10,677	10,323	10,536
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
ここ数年の参加者数は、横ばい傾向である。競技によっては増加傾向のものもあるが、全体的にみると、参加者の固定化又は減少傾向が見られる。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	項	目		
27年度歳出予算額	6,566	27年度歳出決算額	5,778	27年度執行率	88.0%
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 5,778	28年度歳出予算額 6,614
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称			
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの	墨田区体育協会補助金				
27年度実績額	4026	28年度予算額	4,636	対象	墨田区体育協会
開始年度	不明	根拠法令	体育協会補助金要綱		
算定基準	競技種目数及び参加者数に基づく		補助率	種目により必要となる経費が異なるため、種目ごとに算定している。	

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
スポーツを愛好する区民にとって、日頃の練習の成果を発揮する絶好の機会となっている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
総合体育館の開館により、より一層効果的な運営が行われている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
主な経費は会場使用料及びメダル等の購入費のため、経費削減は困難である。				
(4)現状と課題	各種競技大会の実施に当たり、競技運営者に大きな負担が生じており、今後、若手スタッフの確保を図るなど、より効果的な競技大会の実施を検討していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	競技スポーツ振興の分野における根幹的な事業であり、各種競技団体との協働により、効果的な実施ができています。
今後の方向性 (見直しの視点)	事業のPR方法や実施内容等について、各競技団体と協議していく必要がある。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月13日

事務事業名	区民体育祭運営事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	区民体育祭運営費		執行実績報告書ページ	195

1 事業の概要

昭和22年の憲法施行を記念した都民体育大会開催を契機に、昭和24年に第1回区民体育祭が開催された。その後、種目、参加選手数等が増えたことや都民体育大会派遣選手の選考等の理由から、区民体育大会を春に、区民体育祭を秋に実施するようになり現在に至っている。	事業開始年度	昭和24年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか							
区内在住・在勤・在学者					に対して		
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)							
各種スポーツ大会の開催(36種目開催)					を実施したことで		
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか							
区民のスポーツ活動への参加、健康増進、体力及び技術の向上、また、区民相互の交流、親睦が図られている					状態にする。		
目的を達成するための指標							
種類	指標名(指標の説明)		単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	実施種目数		種目	目標値	36	36	36
				実績値	36	35	35
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数		人	目標値	12,000	14,000	14,000
				実績値	13,944	13,340	12,925
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)							
ここ数年の参加者数は、横ばい傾向である。競技によっては増加傾向のものもあるが、全体的にみると、参加者の固定化又は減少傾向が見られる。							

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度 歳出予算額	9,277	27年度 歳出決算額	8,284	27年度 執行率	89.3%	28年度 歳出 予算額	7,350
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 8,284			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		墨田区体育協会補助金					
27年度 実績額	3016	28年度 予算額	3,066	対象	墨田区体育協会		
開始 年度	不明	根拠法令	墨田区体育協会補助金				
算定基準	競技種目及び参加者数に基づく			補助率	種目により必要となる経費が異なるため、種目ごとに算定している。		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	高い
スポーツを愛好する区民にとって、日頃の練習の成果を発揮する絶好の機会となっている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
総合体育館の開館により、より一層効果的な運営が行われている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
主な経費は会場使用料及びメダル等の購入費のため、経費削減は困難である。				
(4)現状と課題	各種競技大会の実施に当たり、競技運営者に大きな負担が生じており、今後、若手スタッフの確保を図るなど、より効果的な競技大会の実施を検討していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	競技スポーツ振興の分野における根幹的な事業であり、各種競技団体との協働により、効果的な実施ができています。
今後の方向性 (見直しの視点)	事業のPR方法や、実施内容等について、各競技団体と協議していく必要がある。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月13日

事務事業名	墨東五区各種大会運営事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	墨東五区各種大会運営費		執行実績報告書ページ	195

1 事業の概要

墨東五区大会は、墨田・江戸川・江東・葛飾・足立の五区が協力し、五区の親睦と技術の向上を目的として実施している大会であり、他地区では例を見ないことから、下町と言われる五区の結びつきの強さを象徴する大会である。	事業開始年度	昭和33年
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住・在勤・在学の選抜選手						に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
全14種目のうち、年2～3種目の当番区となり、墨東五区選抜選手による対抗戦						を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
五区の親睦と技術の向上が図られている						状態にする。
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	当番種目数	種目	目標値	3	3	3
			実績値	3	3	3
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数(当番種目の五区合計)	人	目標値	1,540	890	1,295
			実績値	1,158	584	1,097
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
区を越えた交流の場であり、区民大会参加者から代表を選出する等、競技スポーツの振興に資する事業である。平成27年度は軟式野球、水泳、サッカーの3種目を墨田区が主管した。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度 歳出予算額	6,470	27年度 歳出決算額	5,186	27年度 執行率	80.2%	28年度 歳出 予算額	2,165
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 5,186			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
墨東五区の親睦及び技術の向上を図るために必要な事業である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
区の枠を超えたより広い地域での親睦が図られている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
当番区が持ち回りであり、各区の連携等により経費削減が行われている。				
(4)現状と課題	関係五区の連携、調整が必要である。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	墨東五区で当番種目を持ち回りしているため、年度ごとの比較は困難であるが、事業開始から50年以上続く伝統的行事であり、継続していく必要があると考える。
今後の方向性 (見直しの視点)	墨東五区の連携、協力によって成り立っている事業であり、見直しについては各区で足並を揃えていく必要がある。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 6

作成年月日: 平成28年 6月13日

事務事業名	ホームタウン・スポーツチームの育成事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	ホームタウン・スポーツチームの育成経費		執行実績報告書ページ	194

1 事業の概要

22年度 事業検討、スポーツイベント、スポーツ教室開催 23年度 ホームタウン・スポーツチーム承認、承認セレモニー・応援イベント開催 24年度 学校等訪問教室、展示会、応援イベント開催 25年度 学校等訪問教室、展示会、応援イベント開催、Fリーグ昇格セレモニー開催 26年度 区民ファン感謝イベント、応援イベント開催 27年度 学校等訪問教室、展示会	事業開始年度	平成22年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
ホームタウン・スポーツチームの活動への支援を通じて、トップアスリートとの交流イベント等	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
地域におけるコミュニティ活動を活性化させ、スポーツへの参加意欲が促されている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	学校訪問教室	回	目標値	5	5	5
			実績値	4	4	2
成果指標 (目的に対する指標)	スポーツ実施率	%	目標値	70.0	70.0	70.0
			実績値		36.5	
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
墨田区総合体育館をホームタウンとするスポーツチームの活動を支援することにより、スポーツ振興を通じた地域コミュニティ活動の形成や活性化を図る。また、総合体育館の3つの機能「する」「みる」「支える」を実現するための方策としている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度 歳出予算額	976	27年度 歳出決算額	219	27年度 執行率	22.4%	28年度 歳出 予算額	615
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 219			
使用料等の収入の有無		使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
平成26年度からFリーグに昇格し、知名度も上がった。学校訪問教室等で、スポーツへの参加意欲を促す効果がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
総合体育館の3つの機能「する」「みる」「支える」を実現するための方策としている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	低い
側面的な支援へとシフトしていることから、事業経費は逡減している。				
(4)現状と課題	区民への認知度も向上していることから、今後、より一層事業の実施方法等を工夫していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	幅広い層の区民に対し、スポーツに親しむ機会を提供するための施策として有効である。
今後の方向性 (見直しの視点)	PR強化により、区民への普及を図る。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

事務事業名	姉妹区親善スポーツ大会運営事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	姉妹区親善スポーツ大会運営費		執行実績報告書ページ	195

1 事業の概要

昭和52年4月に台東区と姉妹区として提携したことに伴い、昭和53年から親善大会を実施している。	事業開始年度	昭和53年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
スポーツを愛好する区内在住、在勤、在学の方					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
姉妹区親善交流の目的に照らした円滑な大会運営が実現されるよう、運営主体である体育協会加盟団体の支援					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
姉妹区である台東区と交流を深めるとともに、区民のスポーツ活動への参加を促すことで、健康増進、体力・技術力向上が図られている					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	当番種目数	種目	目標値	3	2	3
			実績値	3	2	3
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数(当番種目の2区合計)	人	目標値	560	120	560
			実績値	550	112	535
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
サッカーの参加者は平成23年度以降、大きく増加している。平成23年度からサッカー会場となった錦糸公園競技場(人工芝)の影響と思われる。その他の種目は多少の変動がある程度である。平成28年度実施種目5種目(アーチェリー、剣道、ソフトテニス、庭球、サッカー)のうち、アーチェリー、ソフトテニスを墨田区が担当している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度 歳出予算額	210	27年度 歳出決算額	208	27年度 執行率	99.0%	28年度 歳出 予算額	135
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 208			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		姉妹区親善スポーツ大会補助金					
27年度 実績額	120	28年度 予算額	100	対象	墨田区体育協会加盟団体		
開始 年度	53年度	根拠法令	文書による単行決裁				
算定基準	参加者数に基づく			補助率	運営に関わる諸経費への補助		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
台東区と交流を深めるとともに、区民のスポーツ活動への参加を促す手段として重要な事業である。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
参加者数は横ばいであるが、姉妹区との交流、技術向上に寄与している。				
(3)事業の効率性	評価結果	低い	前年度評価	低い
他事業との連携・タイアップについて検討の余地あり				
(4)現状と課題	現在、5つの種目を墨田区・台東区で連携して実施しているが、実施種目の妥当性や種目の拡大等について、検討していく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	姉妹区としての区民交流事業であり、費用対効果の観点では有効である。
今後の方向性 (見直しの視点)	共催する台東区との意見交換が必要		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年 6月13日

事務事業名	障害者(児)スポーツ・レクリエーション大会実施事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	障害者(児)スポーツレクリエーション大会運営費		執行実績報告書ページ	195

1 事業の概要

障害者問題を解決するための「墨田区行動計画」の趣旨に基づき、国際障害者年を契機として昭和56年10月から大会を実施している。	事業開始年度	昭和56年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住・在勤・在学の心身障害者(児)とその家族					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
総合体育館においてスポーツ・レクリエーション大会(運営は各障害者団体・施設から選出された委員による実行委員会を中心に進めている)					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
障害者の自立と社会参加を促し、障害者の健康保持及び増進がなされた					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)			目標値			
			実績値			
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数	人	目標値	950	850	850
			実績値	830	828	775
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
平成24年度までは参加者が900名を超えていたが、平成25年度に参加団体が1団体減少したことによって、現在は800人前後の参加者数で推移している。事業の実施内容については、各団体・施設の代表者と共に実行委員会において検討している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度 歳出予算額	2,541	27年度 歳出決算額	2,397	27年度 執行率	94.3%	28年度 歳出 予算額	2,533
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 2,397			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
例年800人前後の参加があり、障害者を対象とした数少ない事業であるため				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
障害者の健康増進を図るために有効な大会(事業)であるため				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	効率的
障害者福祉課と業務分担をしながら進めている。				
(4)現状と課題	2020年の東京パラリンピックを1つの契機として、今後、障害者スポーツの更なる推進を図っていく必要がある。本大会においても、参加者数の回復を図るなど、事業へのてこ入れが必要であると考えている。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	障害者を対象とした、数少ない事業であり、継続が必要である。
今後の方向性 (見直しの視点)	より一層、効率的な実施方法を模索していく必要がある。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年 6月13日

事務事業名	総合型地域スポーツクラブの活動支援事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称				執行実績報告書ページ

1 事業の概要

平成13年度から先進自治体を視察。平成15年度に吾嬭二中地区で設立準備及び設立支援を行い、平成17年3月「スポーツアアズマ」設立。平成17年度に両国中地区で設立準備支援を行い、平成19年3月「両国倶楽部」設立。平成22年6月にスポーツアアズマがNPO法人格を取得。平成23年7月に両国倶楽部がNPO法人格を取得	事業開始年度	平成13年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
様々な世代の区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
地域住民によって自主的・主体的に運営されている総合型地域スポーツクラブの活動支援(施設の優先利用、事務所・クラブハウススペースの提供等)	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
各自の興味・関心に応じてスポーツに親しみ、区民の健康増進と地域コミュニティの活性化が図られている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	活動種目	種目	目標値	30	30	32
			実績値	30	32	32
成果指標 (目的に対する指標)	クラブ会員数	人	目標値	700	730	800
			実績値	710	740	790
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
両団体とも地域住民によって自主運営されるスポーツクラブとして地域に定着し、運営基盤も徐々に安定してきた。今後も、子どもの体力向上、高齢者の健康維持・増進、地域住民の交流促進を図りながら、スポーツ実施率の向上につなげていく。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度 歳出予算額	0	27年度 歳出決算額	0	27年度 執行率	0.0%	28年度 歳出 予算額	0
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 0			
使用料等の収入の有無		使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
地域のスポーツ活動の拠点となっているため、今後も支援を継続していく必要がある。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
会員数がやや伸び悩んでいる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
一部の実施種目について、効率性の確保に向けた改善が必要であると考えている。				
(4)現状と課題	会員数を増加させるための区民へのPR活動、実施種目の選定等について改善の余地がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	スポーツ基本法にも地方公共団体の支援が明記されており、支援の継続が必要であると考えている。
今後の方向性 (見直しの視点)	会員数の増加につながるような魅力ある事業を今後、実施していく必要がある。そのための情報提供やアドバイスを行政として実施していく必要があるため、総合体育館のクラブアドバイザーと共に側面的な支援を継続していく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 10

作成年月日: 平成28年6月13日

事務事業名	野球場の借り上げ事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ施設担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6588
予算書名称	野球場の借り上げ経費		執行実績報告書ページ	196

1 事業の概要

墨田清掃工場の建設に伴い、東墨田野球場を廃止することとなったため、代替施設として江戸川河川敷の野球場を借上げ、一般貸出しを行っている。	事業開始年度	平成7年
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか	
区民	に対して
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)	
廃止となった野球場の補完的施設として、江戸川河川敷(埼玉県三郷市)の野球場を土曜日・祝日は2面、日曜日は3面を借上げ、一般貸出し	を実施したことで
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか	
野球場利用者の需要を満ちし、区民の健康増進及び体力の向上が図られている	状態にする。

目的を達成するための指標

種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	利用件数	件	目標値	970	970	970
			実績値	722	695	676
成果指標 (目的に対する指標)	利用率	%	目標値	90	90	90
			実績値	72	70	66

目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)

区内野球場の補完的施設として一定の利用件数はあるが、減少傾向にある。野球場の所在地が埼玉県三郷市と、区内からの移動時間を要するため、徐々に利用者が減少しているものと思われる。今後、借上げ面数の見直しを視野に入れ、より効率的な借上げを行っていく。
--

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ施設費	
27年度歳出予算額	17,184	27年度歳出決算額	17,183	27年度執行率	100.0%	28年度歳出予算額	17,467
27財源内訳(決算額)	国庫支出金	都支出金	その他	一般財源			
	無	無	有	有			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	墨田区江戸川河川敷野球場(借上)運営要綱			収入額	597,450
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>利用件数は減少しているが、区内野球場の補完的施設として一定の需要はあるため、区が事業を実施する必要性がある。また、事業を休止・廃止した場合、競技人口に対して施設が少ないため、影響は大きいと考えられる。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>指標の実績値は減少傾向にあるが、類似の補完的施設がないため、施策目標を達成するための手段としては概ね適切であると考えている。</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>区内に代替となる施設がないため、関連事業や類似事業との統合は困難なところがある。事業に係る経費は横ばいであり、受益者負担については概ね妥当であると考えている。</p>				
(4)現状と課題	<p>現在よりも交通利便性の良い代替施設を確保する必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	競技人口に対して区内施設が少ないため、野球場利用者の需要を満たすためには有効な施策である。
今後の方向性 (見直しの視点)	利用率の推移を見守りつつ、より効率的な借上げを行っていく。		
平成27年度区 議会の質問状 況	時期		
	要旨		

作成年月日：平成28年6月13日

事務事業名	高齢者健康体操教室運営事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	高齢者健康体操教室		執行実績報告書ページ	195

1 事業の概要

対象 区内在住の65歳以上の方 会場 墨田区総合体育館、八広地域プラザ屋内運動場 定員 460名(総合体育館:90名×4クラス、八広地域プラザ屋内運動場:50名×2クラス) 内容 ウォーキング、ポールエクササイズ、リズムダンス、ストレッチング等	事業開始年度	平成22年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区内在住の65歳以上の方	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
参加者の体力に合わせた年間カリキュラムを組み、ウォーキング、ポールエクササイズ、リズムダンス、ストレッチング等の体操教室	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
高齢者が健康でいきいきと暮らし、体操を通じて健康の維持、増進が図られている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)			目標値			
			実績値			
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数	人	目標値	11,000	11,000	11,000
			実績値	9,558	11,700	13,291
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
事業の効率的な実施のため、総合型地域スポーツクラブに運営委託を行っている。健康志向の高まりを受け、高齢者間の交流の場として、多くの高齢者が受講している。総合体育館は90人定員の4クラスを、八広地域プラザでは50人定員の2クラスを共に年39回開催している。八広地域プラザの教室は、当初は定員割れが生じていたが、4年目を迎えた現在では、抽選となるクラスも発生している。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度 歳出予算額	6,639	27年度 歳出決算額	6,584	27年度 執行率	99.2%	28年度 歳出 予算額	6,856
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 2,392	その他 1,800	一般財源 2,392			
使用料等の収入の有無	有	使用料等名称	講座等参加者負担金		収入額	1,800	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度 実績額		28年度 予算額		対象			
開始 年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
高齢者の健康志向の高まりによって、申込者数が増えているため				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
高齢者の健康増進の手段として教室の開催方法等は適切であると思われる。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
総合型地域スポーツクラブに運営を委託しており、効率的な事業運営が確保されている。				
(4)現状と課題	他部署の類似事業を考慮した事業内容の見直し検討が必要と思われる。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	超高齢社会を背景に事業の必要性は高まっている。
今後の方向性 (見直しの視点)	今後とも事業の必要性の検討や、委託先の履行状況等の確認を確実にしていく必要がある。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 12

作成年月日: 平成28年6月13日

事務事業名	両国屋内プール事業(障害者水泳教室)		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	両国屋内プール管理運営費		執行実績報告書ページ	198

1 事業の概要

平成18年度より指定管理者による施設運営を行っているが、障害者水泳教室については、区が直接管理している。	事業開始年度	平成11年度
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
障害のある区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
障害者水泳教室	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
障害者の自立、社会参加の促進及び健康増進が図られている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	開催日数	日	目標値	3	3	3
			実績値	3	3	3
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数	人	目標値	40	30	40
			実績値	31	33	39
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
障害者向けの水泳教室として一定の需要があり、障害者の社会参加を促す社会的意義が高い事業である。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	屋内プール費
27年度 歳出予算額	220	27年度 歳出決算額	220	27年度 執行率	100.0%	28年度 歳出 予算額
27財源内訳 (決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 220		220
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度 実績額		28年度 予算額		対象		
開始 年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
<p>需要があり、障害者スポーツの振興のため、区が事業を実施していく必要がある。</p>				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
<p>障害者のスポーツへの参加機会の提供ができており、参加者の定員数も満たしているため</p>				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
<p>事業目的をよく理解した区水泳連盟に運営を委託しているため</p>				
(4)現状と課題	<p>人気のある教室プログラムであるため区水泳連盟とも連携し、開催日数を増やすなど、参加機会の拡大について検討していく必要がある。</p>			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	<p>障害者の社会参加を促す社会的意義が高い事業であり、障害者スポーツ振興施策として、継続が必要である。</p>
今後の方向性 (見直しの視点)	<p>障害者スポーツの振興策の一環として、今後とも継続していく。</p>		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月13日

事務事業名	東京マラソン招致活動実施事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	東京マラソン招致活動費		執行実績報告書ページ	195

1 事業の概要

平成20年9月、区議会で東京マラソン墨田区招致の意見書が全会一致で採択されたことを受け、活動開始。21年度：署名活動、シンポジウムの開催、22年度：大会当日に沿道から招致アピール、23年度：招致イベント開催、24年度：大会当日にスカイツリー周辺で招致活動PR。25年度：大会当日に吾妻橋周辺で招致活動PR、26年度：大会当日に吾妻橋周辺で招致活動PR、PRビデオの作成、27年度：大会当日に吾妻橋周辺で招致活動PR、3月29日都よりコース変更発表	事業開始年度	平成21年度
	終了予定年度	平成27年度

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民、地域団体(町会・自治会等)、関係団体(墨田区体育協会、墨田区スポーツ推進委員協議会 等)					に対して	
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
ポスターやチラシを活用したPR活動の展開、東京マラソン当日の招致活動PR、PR用イメージDVDの作成・公開及び東京マラソン主催者・関係機関への要請行動					を実施したことで	
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
東京の新しいランドマークである東京スカイツリーや下町の文化・歴史に彩られた墨田区に東京マラソンを招致することができた					状態にする。	
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	招致に関連した活動の回数	回	目標値	15	10	10
			実績値	7	5	5
成果指標 (目的に対する指標)	東京マラソンのコースの墨田区への招致	回	目標値	1	1	1
			実績値	0	0	1
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
署名活動やPRイベント等の実施及び(財)日本陸上競技連盟や東京都、東京マラソン財団への働きかけにより、東京マラソンのコースの墨田区招致を実現することができた。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度歳出予算額	682	27年度歳出決算額	660	27年度執行率	96.8%	28年度歳出予算額	682
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 660			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの							
27年度実績額		28年度予算額		対象			
開始年度		根拠法令					
算定基準				補助率			

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価	どちらかといえば必要
議会の決議により区民との協働で招致要請活動を実施してきたが、墨田区への招致を実現することができた。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
招致実現のハードルは高かったが、招致活動のPRにより区民の機運は盛り上がった。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
東京マラソンを招致する会等との協働により、効率的な事業展開を実現することができた。				
(4)現状と課題	28年3月29日、東京都からマラソンコースの変更について報道があり、墨田区を通過するコースへと変更することになった旨発表があった。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	廃止	判定理由	28年3月29日、東京都からマラソンコースの変更について報道があり、墨田区を通過するコースへと変更することになった旨発表があった。
今後の方向性 (見直しの視点)	東京マラソン招致が実現されたため、運動としては終了とする。今後は、東京都及び東京マラソン財団等と協力し、大会当日の運営方法や安全確保策等について、調整を図っていく必要がある。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月13日

事務事業名	区民納涼民踊大会運営事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	区民体育祭運営費		執行実績報告書ページ	195

1 事業の概要

区民体育祭の一環として、区民相互の親睦を深め、地域の活性化が図られるよう、毎年盆踊り大会を開催している。 事業運営を円滑に行うため、墨田区民踊連盟に補助金を交付し、当該事業の運営管理を主管してもらっている。	事業開始年度	不明
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
区民	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
東京ソラマチ4階スカイアリーナで盆踊り大会(8月初旬)	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民相互の親睦を深め、地域の活性化が図られている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)			目標値			
			実績値			
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数	人	目標値	1000	1000	1000
			実績値	900	900	900
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
23年度は人目に付きやすい錦糸公園ふれあい広場で行った。付近の歩行者が多く立ち寄ったため、前年比約1.5倍の参加者となった。 24年度はソラマチ広場で行った。場所が狭く、参加者が入りきらず、若干の減少になった。 25年度以降は東京ソラマチのスカイアリーナで行っており、観光客の見学者も増加してきている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度歳出予算額	1,030	27年度歳出決算額	1,009	27年度執行率	98.0%	28年度歳出予算額	1,030
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 1,009			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		スポーツ振興事業補助金					
27年度実績額	960	28年度予算額	960	対象	墨田区民踊連盟		
開始年度	不明	根拠法令	スポーツ振興事業補助金交付要綱				
算定基準	事業実施に伴う設営費等に基づく			補助率	対象経費の10/10 96万円限度		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
他に類似事業が存在しないため本事業は必要であるとする。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
会場がソラマチスカイアリーナに移ったことで、区民だけでなく、観光客の見学者が増加してきている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
事業に対し多大な労働コストを伴うものではなく、これ以上の効率性は望めない。				
(4)現状と課題	納涼民踊大会の実施に当たり、他事業のPRやタイアップを検討していく。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区民が主体となって、区民の交流・親睦を図るための公益的事業として実施をしているため。
今後の方向性 (見直しの視点)	スカイツリータウン外部からの誘客方策を検討する必要がある。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

作成年月日：平成28年6月13日

事務事業名	わんぱく相撲・わんぱくトライアスロン運営事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	その他のスポーツ振興経費		執行実績報告書ページ	195

1 事業の概要

事業開始当初、両事業の主催者である公益社団法人東京青年会議所墨田地区から墨田区及び墨田区教育委員会へ後援名義の使用申請依頼があった。当該事業は、青少年の健全育成と体力増進に大いに寄与するものと認められたため、後援名義の使用承認と補助金の交付を決定したという経緯がある。以来、今日まで事業が継続されている。	事業開始年度	
	終了予定年度	未定

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】 誰(何)を対象としているのか						
公益社団法人東京青年会議所墨田地区	に対して					
【手段】 どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
公益社団法人東京青年会議所墨田地区の主催事業であるわんぱく相撲とわんぱくトライアスロンへの支援	を実施したことで					
【目的】 この事業によって対象をどのような状態にするのか						
青少年の健全育成、心身の鍛錬、豊かな人格の形成が実現されている	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)			目標値			
			実績値			
成果指標 (目的に対する指標)	参加者数(相撲・トライアスロン)	人(約)	目標値	1,050	1,000	650
			実績値	939	1,086	719
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
昨年は会場の都合でトライアスロンが行えなかったが、例年、両事業を合わせて、900名近い参加者があり、大会に興味を持っている小学生が多くいることが伺える。補助金を交付することにより、大会の円滑な運営の一助になっていると考えている。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ振興総務費	
27年度歳出予算額	800	27年度歳出決算額	700	27年度執行率	87.5%	28年度歳出予算額	800
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 700			
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額	
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの		スポーツ振興事業補助金					
27年度実績額	700	28年度予算額	800	対象	公益社団法人東京青年会議所墨田地区		
開始年度		根拠法令	スポーツ振興事業補助金交付要綱				
算定基準	特定の事業運営に対する経費の一部、予算補助			補助率	特定の事業運営に対する経費の一部、予算補助		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	どちらかといえば必要	前年度評価	どちらかといえば必要
相撲は都大会への予選を兼ねており、トライアスロンは台東区との共同開催をしている。				
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価	どちらかといえば有効
青少年育成に大きく貢献をしている。				
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価	どちらかといえば効率的
公益社団法人東京青年会議所墨田地区が主催し、区としては経費の一部の補助にとどまる。				
(4)現状と課題	子どもの健全育成や体力向上など、さまざまな面から有効なスポーツ振興事業であるが、土曜授業等の関係で、学校との連携をより一層図っていく必要がある。			

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	区民が主体となって、子どもの健全育成、体力向上等公益的事業を実施している。
今後の方向性 (見直しの視点)	参加者拡大の工夫が必要である。		

平成27年度区 議会の質問状 況	時期	
	要旨	

平成28年度 事務事業評価シート

整理番号 16

作成年月日: 平成28年6月13日

事務事業名	旧中川艇庫整備事業		所管課・係	スポーツ振興課スポーツ振興担当
施策	522	区民による生涯スポーツの取り組みを支援する	連絡先	5608-6312
予算書名称	その他の維持管理費		執行実績報告書ページ	196

1 事業の概要

平井橋水防倉庫内の艇庫(26年度末整備)を活用し、ボート体験教室を実施することで、区民の体力の向上及びボート競技の振興を図るとともに、墨田区のボートに関する歴史を継承していく事業として実施している。また、27年度は、旧艇庫(江東橋四丁目)の棧橋撤去を実施した。	事業開始年度	平成27年
	終了予定年度	なし

2 事業の対象・手段・目的(具体的に、限定的に記入してください)

【対象】誰(何)を対象としているのか						
区民	に対して					
【手段】どのような方法で行ったのか(具体的な事業内容)						
指導者を配置し、初心者でも安心して学べるボート体験教室	を実施したことで					
【目的】この事業によって対象をどのような状態にするのか						
区民の体力の向上及びボート競技の振興を図るとともに、墨田区のボートに関する歴史が継承されていく	状態にする。					
目的を達成するための指標						
種類	指標名(指標の説明)	単位	年度	H25年度	H26年度	H27年度
活動指標 (手段に対する指標)	延実施回数	回	目標値			16
			実績値			9
成果指標 (目的に対する指標)	延参加者数	人	目標値			144
			実績値			19
目的の達成に対する事業の結果(指標分析と事業実績の要因分析)						
27年度は試行的実施であったため、認知度が低く、参加人数が伸び悩んだ。参加者にとっては、ボート競技の体験や、墨田区のボートに関する歴史を学ぶ良い機会になったと考えている。今後、施策目標を達成するため、参加者が増加するような工夫や周知方法の強化に取り組んでいく。						

3 予算・決算状況(金額の単位は全て千円) *歳出は切上げ、歳入は切下げ

科目	款	教育費	項	スポーツ振興費	目	スポーツ施設費
27年度歳出予算額	5,194	27年度歳出決算額	4,899	27年度執行率	94.3%	28年度歳出予算額
27財源内訳(決算額)	国庫支出金 0	都支出金 0	その他 0	一般財源 4,899		
使用料等の収入の有無	無	使用料等名称				収入額
補助金名称 *複数ある場合は代表的なもの						
27年度実績額		28年度予算額		対象		
開始年度		根拠法令				
算定基準				補助率		

平成28年度 事務事業評価シート

4 視点別の評価(担当者評価)

(1)事業の必要性	評価結果	高い	前年度評価
<p>27年度は本事業の初年度であったため参加者数は少なかったが、区民の体力向上及びボート競技の振興、墨田区のボートに関する歴史を継承していく場として一定の効果があったと考えている。また、上記の趣旨を達成していくためには、事業の継続が必要であると考える。</p>			
(2)事業の有効性	評価結果	どちらかといえば有効	前年度評価
<p>水上で実施するスポーツであるという特殊性から安全対策が第一であると考えている。このため、初心者でも安心して参加できる本事業は、区民の体力向上及びボート競技の振興、墨田区のボートに関する歴史を継承する場として有効であると考えている。</p>			
(3)事業の効率性	評価結果	どちらかといえば効率的	前年度評価
<p>関連する事業や類似事業はない。27年度の参加者は少なかったが、今後、事業の周知を予定しており、参加者の増を図っていく。</p>			
(4)現状と課題	参加者数を増やすため、周知方法を強化していく必要がある。		

5 総合評価(課長評価)

評価結果	現状維持	判定理由	ボート競技の振興、墨田区のボートに関する歴史を継承していくための事業として有効な施策である。
今後の方向性 (見直しの視点)	参加者の増加を図るため、事業のPR方法を検討し、情報発信を強化していく。		

平成27年度区議会の質問状況	時期	
	要旨	